

## 2014 年度「検索技術者検定」に合格して

2014 年度の「検索技術者検定」に合格された方の感想文をいただきましたので、ご紹介いたします。

### ◆ 3 級合格者



木嶋 崇人さん  
近畿大学

僕が検索技術者検定を受けたきっかけは、自分の所属大学の司書課程のガイダンスのときに紹介されていた資格に興味を持ったからです。

検索技術者検定 3 級の資格勉強は、11 月の上旬くらいから始めました。試験の対策のやり方は検索技術者検定の過去問題をひたすらやり続けて、参考書の「情報検索の基礎知識 新訂 2 版」に過去問で出たところに赤マーカーを引いていました。そして過去問で間違ったところを重点的に復習しました。それから過去問が全て終わると、教科書全体をしっかりと読みこんでいました。また自分の所属大学の司書課程の掲示板に検索技術者検定の講習会のおしらせがあったので申し込みをして、参加しました。そこでは、今回の試験から新しく範囲に入って勉強しにくかった、「さまざまな情報源」の出そうなところが聞けてとても良かったです。

検索技術者試験の内容は、この試験を受ける一か月前に受けていた試験、基本情報技術者と「IT の最新技術と情報社会」で範囲が重なっていたので、その範囲の試験対策はやりやすかったです。それ以外の範囲は知らないことがほとんどだったので、頑張って知識を詰め込みました。この検索技術者検定 3 級を受けて、検索にはさまざまな媒体が使われていて、データベースには分野ごとに分かれていてたくさんの種類が存在していて、それを企業や学校がお金を出して払って情報を手に入れることに興味を持ちました。それほど、企業や学校は物事の情報が重要視されていることがわかりました。

僕の大学で所属している学科は情報学科で情報検索との関わりが密接にあるし、僕の好きな化学との分野も情報検索は密接に関係があるので、自分の所属している大学の勉強だけではなくて、検索技術の勉強や化学分野の勉強や資格取得も在学中に出来るだけ、していきたいと思っています。そして僕のどのようなことをしている会社に就職したいのかを考えながら大学残り 3 年間勉強をしていたと思っています。今回の検索技術者検定 3 級を受けたことによって、たくさんの知らなかったことが知る機会が出来て良かったです。

2015 年度の検索技術者検定 2 級は大学の勉強に余裕が

出てきたら勉強を始めて、今年に合格できるように頑張りたいです。3 級と違って 2 級は記述が必要なのでうまく文章で説明できるように何度も練習していきたいです。そして検索技術の知識をどんどん増やしていきたいと思っています。

### ◆ 1 級合格者



塘 公作さん  
株式会社ネットス 特許調査部

私は現在、知財情報会社でサーチャーとして特許調査業務に従事しています。

3 級や 2 級とは異なり、1 級は主催者側からも試験対策としての情報が殆ど提供されておらず、元々受験者数も非常に少なく合格者の声を聴く機会も限られますので、少しでもお役に立てばと思い、今回の試験を終えて感じたことを書かせて頂きます。

検索技術者検定という名称から、各種検索ツールやデータベースの活用スキルを問う試験のような印象を持たれるかも知れませんが、1 級のレベルでは検索のみならず、その前後の過程も含めた調査業務全体の実行力が問われます。

依頼者への調査内容の聞き取りに基づいて調査観点を設定し、適切な検索式を立案して実際に検索、調査を行い、結果を調査報告書にまとめて提示することで調査が完結します。開発担当者の方とお話しする中で初めて発明内容のポイントが明確になることもありますし、また技術動向調査や侵害性調査等の目的によって調査のポイントも変わりますので、依頼者の調査目的に合った検索式や調査報告を組み立てる必要があります。

1 級の試験問題は、その一連の流れを念頭においた、調査の実務において直面するような具体的な留意点や問題解決能力が問われる内容だと感じました。理論武装ではなく自分自身の調査経験に裏付けられた解答が表現できれば、説得力のある答案になると思います。口述試験のプレゼンテーションも同様です。

試験問題に特化した対策はとりづらいのが実情ですが、私が一番重要だと痛感したのは「限られた時間内で、構成

を考えながら、所定の文字数以上の文章を、手書きで書くこと」。予め過去の試験問題で練習しておくことをお勧めします。

検索技術者検定1級の試験は、特許・文献・その他の情報源、また専門分野を超えた、サーチャーの総合的な能力を認定するもので、受験そして合格によって大きな経験が得られるものと思います。少しでも多くの依頼者の方から感謝の言葉を頂けることを目指して、今後とも研鑽を積んでいきたいと考えております。

## ◆ 1級合格者



畔上 英樹さん  
オンダ国際特許事務所

### 1. インフォプロの不安

「インフォプロに存在価値はあると思いますか？」

これは、検索技術者検定1級の2次試験で出題された質問の1つです。情報インフラが発展し、誰でも手軽に情報を入手できるようになったことを背景とした問いであったと記憶しています。

特許調査の仕事に就いたのは約10年前になります。当時はデータベースが限られており、そのデータベースにアクセスするスキルだけでも価値が認められる時代でした。情報それ自体に価値があったともいえます。

今日、「特許は簡単に調べられるようになった」という風潮があります。白状しますと、私は、情報インフラの発展によってインフォプロの存在価値が侵食されるのではないかと不安を覚えていた時期がありました。

しかし、実際は逆でした。情報インフラの発展は、インフォプロの存在価値を奪うどころか、存在価値を高めていると感じています。

素人とインフォプロとでは調査の精度に差が出ます。つまり、誰もが高度な情報インフラを使いこなせるわけではないのです。インフォプロだからこそ、それを武器にすることができるのだと思います。高機能化したスマートフォンの全ての機能を皆が使いこなせるわけではないのに似ています。

また、特許調査では、技術に関する知識だけでなく、特許法や特許分類など広範な知識が求められます。日頃から調査業務に精通していなければ、このような知識を蓄積、維持することはできません。

### 2. インフォプロとしての展望

私は「インフォプロ」という職業には存在価値があると思います。しかし、私個人の存在価値の有無につきましては、客観的な評価、つまり顧客に委ねるしかありません。

2次試験では、今後も継続してインフォプロとしてのスキルを磨くことを宣言しました。インフォプロとしての私の存在価値が認められるように、引き続きスキルを高めていきたいと考えています。

先ほど、インフォプロだからこそ情報インフラを武器にできると書きましたが、逆に申し上げますと、インフォプロは、情報インフラの発展に応じてスキルアップを図っていく必要があると思います。

情報検索に関するスキルを試すのに、検索技術者検定は良い機会だと思います。全てのインフォプロが自らの存在価値を求め、スキルアップを図ってこそ、「インフォプロ」という職業の社会的地位が向上していくものだと思います。我々でインフォプロの存在価値を高めていこうではありませんか。

最後に、私が所属するオンダ国際特許事務所の社是の一部を紹介します。「私達は情報を通じて世界に貢献します。」私はインフォプロとして、この社是が大好きです。